

# WHO「セーフコミュニティ」活動

「予防」活動をベースとした  
住民主体の安心・安全なまちづくり

報告者 白石 陽子  
マチュールライフ研究所

## 報告の流れ

- I. 背景
- II. セーフコミュニティ (SC) とは
- III. SC活動の展開
- IV. 日本におけるSCの取組み
- V. 考察

<http://www.mature-life.jp>

## I. 背景(WHOと安全)

- 「Safety (安全)」とは
  - 単に「危険がない状態」ではなく、危険をコントロールできている状態
  - 出典：WHO Collaborating Centre on Community Safety Promotion
- WHO とSafety (安全)
  - WHOの「すべての人に健康を」戦略 (1977～)
  - 疾病予防 ⇒ 健康の阻害要因の予防
    - ・ ・> 外傷・事故・暴力・災害なども健康の阻害要因
  - ⇒ 「安全なまちづくり」は「ヘルスプロモーション」
  - ⇒ 「Safe Community」の推進

<http://www.mature-life.jp>

## II-1. 「セーフコミュニティ(SC)」

WHO 地域の安全向上のための協働センター (地域CSP協働センター)

外傷や事故など健康の阻害要因を「コミュニティレベル」で予防

↓

だれもが安心して生活できる安全なまちづくりへの取組み

地域住民の主体的な参加

世界で約115(累計)のコミュニティがSCに認証

<http://www.mature-life.jp>

## II-2. 「セーフコミュニティ」の基準

**連携の仕組み** 1. 分野の垣根を越えた協働による推進組織がある

**地域の実情にあった継続的なプログラム** 2. 全ての年齢、性別、環境、状況をカバーする長期的、継続的なプログラムがある

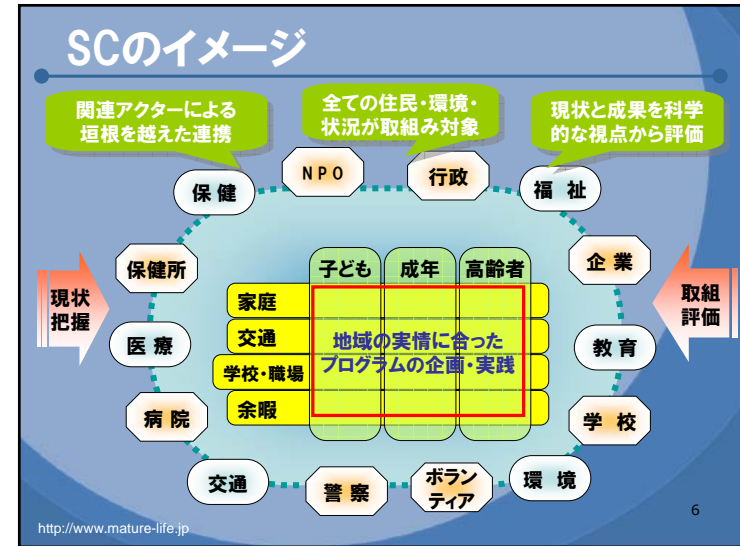
3. ハイリスクグループと環境に着目し、弱者グループの安全性を高めるプログラムがある

**評価の仕組み** 4. 外傷の頻度と原因を記録するプログラムがある

5. プログラム、プロセス、実践の効果をアセスメントする評価基準がある

**情報交流** 6. 国内および国際的なSCネットワークへ継続的に参加している

<http://www.mature-life.jp>



## II-3. SCの対象範囲

|    | 子ども (0-14) | 青年 (15-24)    | 成人 (25-64) | 高齢者 (65以上) |
|----|------------|---------------|------------|------------|
| 環境 | 家庭         | 風呂での溺水、やけど    | やけど        | 火事、転倒      |
|    | 交通         | 登下校の事故        | 自転車事故      | バイク・自動車事故  |
|    | 学校         | 学校での事故やケガ     | 学校での事故やケガ  |            |
|    | 職場         |               | バイト先の事故    | 職場での事故     |
|    | 余暇・スポーツ    | 公園でのケガ、フールの溺水 | 運動中のケガ     | レジャーの事故    |

+

|           |               |     |    |      |
|-----------|---------------|-----|----|------|
| 自殺        | いじめ           | いじめ | うつ | うつ   |
| 暴力 (DV含む) | 児童虐待          | DV  | DV | 老人虐待 |
| その他       | 自然災害、火災、台風 など |     |    |      |

<http://www.mature-life.jp>

## III-1. SC活動モデルの形成

1970年代(スウェーデンのファルショッピング) 外傷予防プログラム(FAPP)

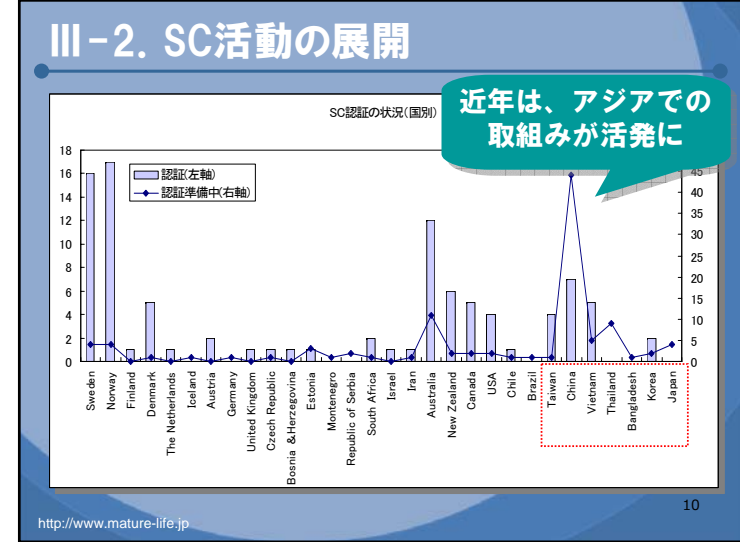
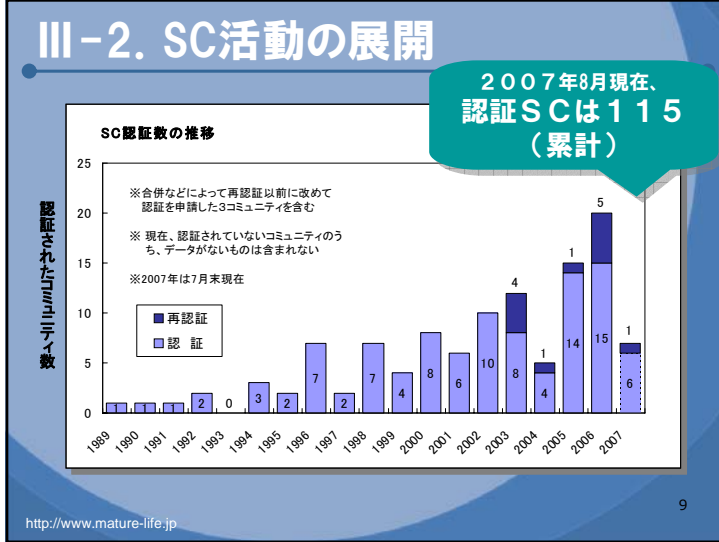
3年で外傷が約30%減少

WHOによる「ヘルスプロモーション」 外傷予防の必要性

1989年～「セーフコミュニティ」活動を開始

- WHOとカロリンスカ研究所(医科大学)による地域の安全向上のための協働センターを設置
- SCの認証制度を開始

<http://www.mature-life.jp>



### IV-1. 日本におけるSC活動

- 日本で、SCに認証された自治体はない  
⇒従来から各分野の政策により高い安全性を確保  
⇒一方で、近年では、SCへの関心が高まる傾向
- 京都府はSC活動を積極的に導入・展開  
- 3つの「メリット」を提示

地域の安全の向上

医療等費用の軽減

地域コミュニティの再生

↓

亀岡市での取組みをモデル事業に設定

http://www.mature-life.jp

### IV-2 亀岡市(人口約10万人)の概要

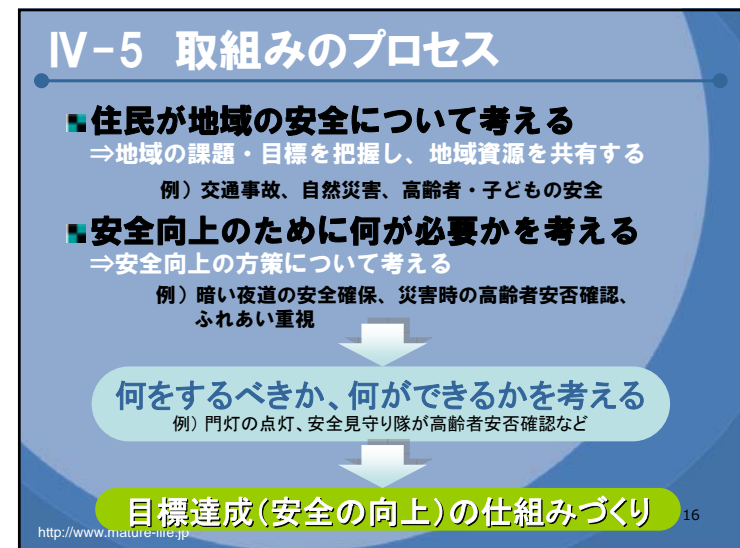
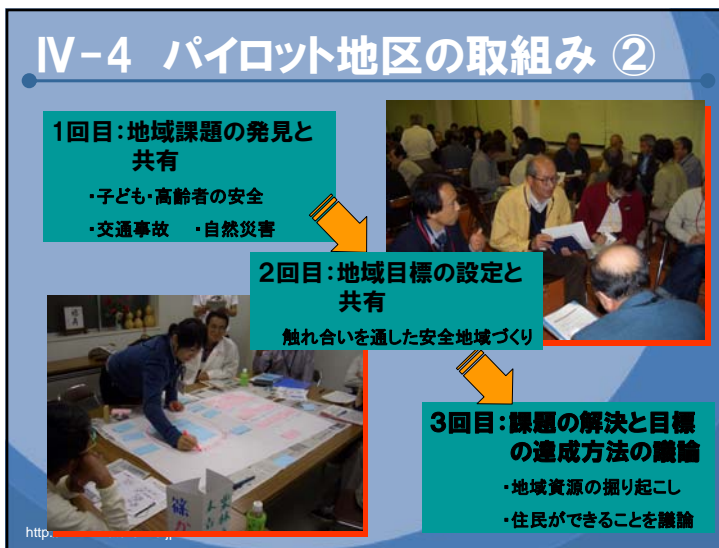
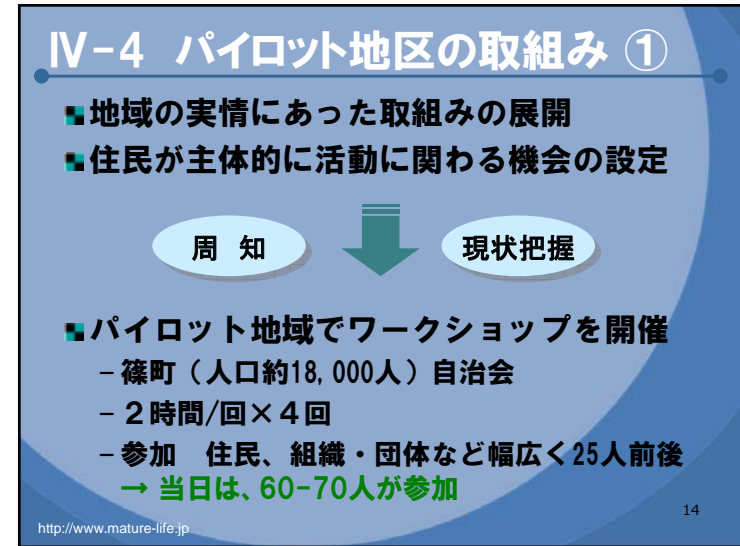
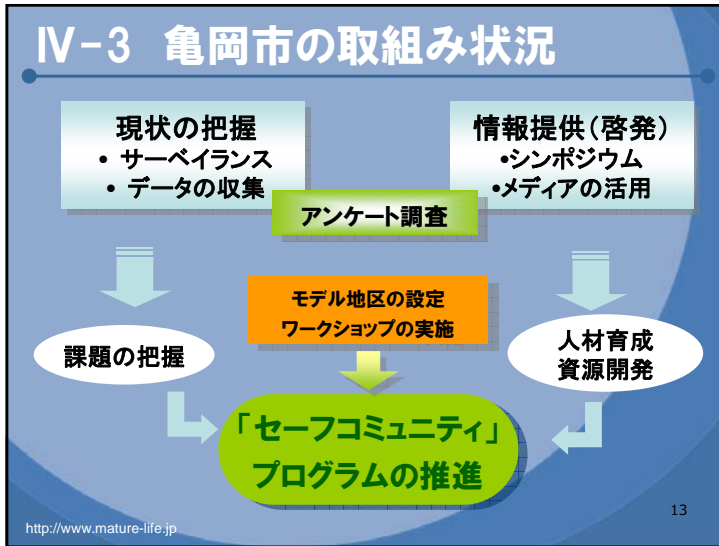
- 都市(京都/大阪)に近く、アクセスが良い
  - ベットタウン化 → 地域のつながりの変化
  - 多い交通量 → 交通事故の不安
- 豊かな自然
  - 保津川、山・・・ → 自然災害

- 「人と人とのつながり」の重視
- 地域の実情にあった「安全なまちづくり」

↓

「セーフコミュニティ」への取組み

http://www.mature-life.jp



### V-1 考 察(SC活動の可能性)

■SCが広く取入れられる要因

1. 「身の丈にあった」取り組み

- ① シンプルなガイドライン（6指標）
- ② 地域の実情に応じた課題と目標の設定
- ③ 既存の地域資源の活用を重視

2. PDCAサイクルの構築

- ④ 科学的な根拠に基づいた分析によるプログラムの評価、改善

↓

実情に合わせたSC活動の展開が可能

⇒日本は、日本のコンテキストで取り組む

http://www.mature-life.jp 17

### V-2 考 察

■日本における安全向上の取組み

- 従来からの安全政策により高い安全性を確保
- 分野ごとの安全政策の推進
  - ⇒ 地域を軸とした包括的な視点の必要性
  - ・ ・ > 「地域」の実情に応じた取組み
  - ・ ・ > 「地域」としての安全性のトータル評価

セーフコミュニティ活動

地域の連携による  
包括的な取組み

科学的な視点から  
客観的に評価

↓

地域の安全向上にむけた効果的な展開が可能

http://www.mature-life.jp 18

ご清聴ありがとうございました

マチュールライフ研究所  
白石 陽子  
yokomature@cyberoz.net